

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500296		
法人名	有限会社 プライムタイム		
事業所名(ユニット名)	グループホームひまわり		
所在地	和歌山県有田市箕島22-1		
自己評価作成日	令和3年4月30日	評価結果市町村受理日	令和3年7月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=3071500296-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=3071500296-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年6月24日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、有田市の中心部に位置し施設の窓からは、蜜柑山・有田川が一望でき、近隣の小学校からは、毎日子供達の元気な声が聞こえてきます。その為小学校の生徒さん達との交流も多く、交流会や運動会・音楽会への招待やコロナ過の中では、オンライン交流会を行い高齢者の方々にマスクをして頂く取り組みをして頂いたり、認知症高齢者さんに対して理解を深めて頂ける交流を続けています。又和太生の声掛けで「オンライン音楽会」にも参加コロナ過の中(認知症カフェ・介護教室等)いろいろな活動は停止していますが、楽しんで頂ける様工夫しています。又利用者様が今までされて来ただであろう梅干し作り・なれずし作り・金山寺みそ作り・柏餅など利用者様に教えて頂きながら作っています。アロマオイルを使用するのタクティールケアを職員が行い、利用者様とのひと時を過ごせるよう取り組んでいます。食事についても、季節感を感じて頂けるように、又利用者と一緒にメニューを考えながら・自宅で作られてきた事を回想して頂く工夫をしています。

### 【外部評価で確認した事業の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流が積極的に図られ、入居者が地域の中で活かされる関係性を保てる努力がなされている。事業所の玄関には花が育てられ、入居者が気持ちよく過ごせられるようきめ細かな配慮がなされている。グループホームの理念「和んで 笑って つながって」を職員全員が大切に、入居者が日々生き生きと楽しみを持ってよう、地域との関わり等をより強固なものとして大きな輪の中で過ごされるように努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	<input type="radio"/> ショクインハ、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	<input type="radio"/> 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	<input type="radio"/> 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	<input type="radio"/> 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	<input type="radio"/> 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/> 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	<input type="radio"/> 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	<input type="radio"/> 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	<input type="radio"/> 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	<input type="radio"/> 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	<input type="radio"/> 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	<input type="radio"/> 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	<input type="radio"/> 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	見える場所に理念を掲示し職員は常に理念に基づいた事業所である様に心がけている。毎月のカンファレンスや一年1回の管理者との面談時にも理念の浸透を図り、新人職員には、研修を行う事としている。	法人の理念とグループホーム独自の理念が、グループホーム内の見えるところに掲げられている。独自の理念は、介護計画作成者が中心になり、入居者と職員の話し合いにより作成され、穏やかに過ごせるようにと願いが込められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流を大切に職員も地域の一人として清掃活動等、自治会活動に参加。運営推進会議・災害時避難訓練等にも地域の高校生や住民の方にも参加して頂いている。介護教室やカフェ・小学校への出前事業等利用者様が地域の方とつながる事が出来る様支援しています	コロナ禍以前は、地域との交流は盛んに行っており、自治会活動や小学生とのふれあい交流会への参加とともに、高校生には、運営推進会議・災害時避難訓練等に参加してもらっていた。現在は、コロナ禍の為、写真やお手紙を頂き交流に努めている状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域福祉ネットワーク会議や在宅医療サポートと仲間たちの会・有田市生活支援体制整備協議体の委員として、又医療機関でのお話等をさせて頂いています。又 カフェ・介護教室の開催等を行っていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症により、書面での会議開催を行い書面により意見等を返して頂き、「次回会議までの継続課題」等問題を明確にし、サービスの向上に生かしています。	コロナ禍以前は、2か月に一度開催し、本人・家族をはじめとし、自治会の方、地域包括支援センター職員が出席され行っていた。その中で家族より、フリーマーケットの提案がなされ、実際に開催を行ったこともある。現在は、コロナ禍のため、安全第一を考え書面での開催を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、事ある毎に相談や報告を密に取り 協力関係の構築に努めています。 全てやり取りについては、記録に残しています。	市町村とは、介護関係だけでなく障害者福祉の面でも随時連携を図り、協力関係を構築している。やり取りはパソコンに記録し、職員が必要に応じて確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場に於いて随時事例検討や勉強会を行いマニュアルの作成・理解を深める事に努めている。安全に自由な暮らしを支援するため日中は玄関等の施錠はせず、職員間の相互確認を強め又近隣の方への理解協力を得られるように働きかけています。	定期的に、身体拘束・高齢者虐待・ハラスメント防止等の研修を行っている。また、外部講師を招いた勉強会も行うとともに、人権推進委員の研修を受けた職員が職員全体に伝達している。事業所の玄関は施錠せず、地域住民の協力を得られるよう働きかけを行うことで、入居者の自由が確保されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内にて定期的に、勉強会を行い、啓発・学ぶ機会を持ち、虐待の内容に職員間でも常に注意出来る環境を構築しています。又 虐待の危険を早期に見出した場合は、関係機関へ連絡・連携し、速やかに対応出来る様心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修への参加により、学ぶ機会を持っている。新型コロナウイルスの流行後はICTを活用オンライン等による研修等にも参加 現在ご家族様等に成年後見人制度について説明等を行い利用されている利用者様もおられます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、グループホームに於いて出来る事出来ない事や、希望される生活を支援させて頂く為の工夫等についてや利用料金等についても納得を得た上で手続きを進めています。又重度化に伴う説明についても契約時に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様のご意見等を反映出来る様、家族様との連絡や報告を記録に残し職員間で共有を図れるよう工夫しています。又 頂いたご意見等については、カンファレンス・運営推進会議等で報告運営に反映出来る様取り組んでいます。	意見や要望を反映させられるよう、入居者家族に定期的にアンケートを実施している。過去に、職員の名前と顔がわかるようにしてほしいとの意見に対しては、見えるところに写真付きの自己紹介文を掲載し、お知らせするなどの対応を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の日勤・夜勤者からの報告を受けるときに支援についての意見等についても随時・速やかに対応出来る様にしています。	面談は年に数回実施している。また、日ごろから職員との話し合いの機会を設けたり、職員の健康状態の把握にも務め、声掛けを行うなどして、意見の言いやすい関係性を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件の構築により 個々の能力や実績に対しての昇給や業務の改善に努めています 随時 相談・業務環境への配慮を行い、職員が向上心が持てる様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・現任研修等受ける機会を持つるようにしています。又 資格習得に向けて積極的に支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有田市地域の福祉介護事業所でのネットワーク会議を設立参加し、意見交換等を行い地域での活動等について話し合っています。又災害時等での取り組みや課題についても話し合い共有しサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の生活上・病歴・生活歴の把握に努め、十分なアセスメントを行い、本人・家族の思いに耳を傾けながら安心して頂ける様に努力しています又主治医との連携を密に図りご意見を頂きながら支援をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にも、自宅等での聞き取りや随時連絡がしやすい状況を取りながら、小まめに相談等への支援を計画作成担当者・管理者共に行っています。又情報を共有するため随時 書面に残しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人・家族等の実情や要望を基にその時点で何が必要かを見極め事業所として出来る限りのサービス提供を行い、必要な場合は他のサービスの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴・価値観・想いを理解し、利用者としてのくくりで接するのではなく、人として共に暮らし、喜怒哀楽を共にし、家庭的な雰囲気と一緒に築いていけるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状報告をまめに行い(月次報告等)家族様と共に密に連絡・相談を行いながら支援しています。又家族様が常時訪問しやすい雰囲気作り、良い関係を築ける様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にされてきた方との外出や外泊にも支援、外出時の様子についても記録して頂き職員間で共有していますが、現在コロナ感染症の対応の為自粛して頂いていますが、携帯電話での動画や写真や手紙等で行っています。	元々住んでいたご近所の方が訪ねてくることもあり、お墓参りの等の希望があれば送迎の支援等を行っている。馴染みの美容室に行きたい希望があれば、職員が協力するなど今までの関係性が途切れない支援を実施している。旅行・外出等も家族の協力を得ながら要望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	平素より利用者様の声に耳を傾け個々に知り得た情報をカンファレンス時に検討、対応についても共有しています。お声掛けの工夫により楽しく過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所された後も関係性を保ち必要に応じて相談支援しています。又その家族様も引き続き運営推進会議に参加をして頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の声に耳を傾けながら利用者様お一人お一人を知り得る為アセスメントを丁寧に行なうべく本人の想いに寄り添った協議を重ねたい・意向を把握出来る様支援をしている。又個々のしぐさや声のトーンなど言葉以外のシグナルにも気づけるようにしています。	入所前のアセスメントは、本人・家族・ケアマネジャー等へ丁寧に行き、本人の思いを出る限り抽出するよう努めている。見えること・話したことだけでなく、感じとる努力を行い、本人の思い・意向を見つけることを職員間で協力して行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族様よりお話を聞かせて頂き又以前のケアマネからの情報を頂くなど連携を図り、入居までの暮らしや生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントより計画書3表に表し、日々個々の介護日誌・支援経過に記録し申し送る事で職員全員が把握出来る様にしている。利用者の状態によりケース会議を開催し時には担当医と相談を交え状況の把握・ケアについて検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、「利用者の出来る力」に視点を定め本人・家族等・担当医・看護師等関係者と話し合い職員間での検討を経て作成している。各担当職員によるモニタリングを通じて評価をしながら必要に応じて修正を行い現状に即した計画書作成に努めている	アセスメントを大切に、計画の見直しは定期的に行い、状態の変化があれば、都度見直しを行っている。計画は、本人・家族を含め、医師・看護師との連携のもと立案されている。モニタリングは担当制をとっており、担当者を中心に職員で話し合い評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録に於いて、毎日の気づきやケアの実践・工夫された事を詳細に記録を行い、モニタリングを作成職員間で情報の共有を行い、随時検討する事で介護計画を見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との外出・外泊・外食等の希望に添える様に支援してきましたが、現在コロナ感染症の予防の観点より自粛して頂いています。近隣への1-1での散歩やお宮さん参り・玄関のお花の鑑賞等は随時希望時に行っています。又 家族様とも会えない状況が続いている為、電話や時間制限やクイヤ版設置等感染予防した所での面会等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の状況に応じて、地域包括支援センター・保健センター・福祉課・警察・地域の方々と協力して頂き会議当にも参加して頂きながら本人の力が出来るだけ発揮市ながら安全で豊かな生活を支援出来る様に工夫しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については本人・家族の意向・希望に沿うように又ご本人の気持ちを傷つけない様に、診察前に医療機関状況報告書を作成Drに繋げています。又 内科医だけではなく認知症 歯科 眼科等の専門医への受診も随時行っています。	入居前からのかかりつけ医への受審については、本人・家族の希望に沿うように努めている。事業所では、内科医以外の専門医の受診への対応も行っており、看護師がオンコールで対応できる体制を整え、必要な処置が行えるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者がいつもと違う様子が見られた時に、直ちに看護師に相談・管理者と連携し担当医に連絡相談を行い、同時に家族様との連携を図りながらスムーズに適切な医療を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の不安を和らげられるよう家族等と相談しながら医療機関に対してケアでの情報を伝え、スムーズな退院に向けて退院前カンファレンス等をして頂ける様に支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けて、家族様に説明を行っている。又終末期には医師の説明のうえ家族様の意思を確認し、同意書を交わしている。看取りに向けての計画書を作成家族様の同意を頂き支援を行っています。その中には、グループホームで過ごす以外に家に帰る選択もあり又家族様にホームで宿泊して頂き看取りをされる家族様もいました。	看取りに関しての説明は入居時に行い、実際に終末期を迎えるにあたり、医師の説明のもと、同意をいただいたうえで、対応している。定期的に研修を実施し、事業所にてできることを看護師と連携を図りながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、マニュアル化し、勉強会等にて周知を図っている。利用者様毎の持ち出しノートや緊急対応表を薬保管庫に置き、スムーズに対応が可能になっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定した訓練を実施、地域住民・高校生等と一緒に実施。今年度についてはコロナ感染症の影響があり内部のみの研修とする。他の介護従事者と連携を図り話し合いの機会を持ちしおり等作成中。又災害時に備え食糧・水等又簡易ストープ等の備蓄を行っている。土のう等も備蓄している。	火災を想定した避難訓練を年2回行い、年1回は消防署の協力も得て実施している。コロナ禍以前は、地域住民の協力もあり、地元高校生が参加し実施することもあった。災害時の備えとして、食料等の備蓄の他、土嚢等も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、声掛けの工夫本人の受け入れを基準とし、自己の存在が出来る呼び名を用い、家族にも了承得ています。個人情報については鍵のかかる場所に保管・管理を徹底しています。	一人ひとりの人格の尊重を重視し、まずは挨拶からという意識が職員に浸透している。接遇マナー向上の為、講師を呼んで研修することもある。馴染みになってくる中で、改めて入居者との距離を見つめなおし、節度を保った関係性を職員間で意識することを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の声に耳を傾け、日常生活の場面に於いて出来る限り、本人の思いや希望が反映出来る様に支援しています。例えば食事や入浴等お声掛けにてご本人の声を聞かせて頂きながら支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の「自分らしい生き方・生活」の実現に向けた支援が出来る様に努めています。例えば食事の時間・献立の調整や外出・日課とされている散歩等の継続など計画書第3票にも記載し、本人の希望やその日の状態によって変更出来る様に心がけ、個々のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みの服を選ばれ、女性はお化粧をされ、お好みのアクセサリをつけている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に季節に合った献立を考える様に努め、個々の出来る事を行って頂きながら調理準備・盛り付け・片付けも一緒にして頂いています又身体状態に合った食事形態で対応でき、体調により居室や居間で美味しく食べて頂ける工夫をしています。	献立は、入居者と一緒に冷蔵庫の中身を見ながら何を作ろうかと談笑しながら考えている。近くの魚屋さんに職員と一緒に歩いて買い物に行ったり、車で買い出しに行ったりもしている。入居者に、調理や盛り付け・片付けを手伝ってもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量の記録を取り、一日を通じて確認出来る様にしています。定期的な体重測定や血液検査等により確認又Drと相談の上栄養補助食品なども取り入れています。利用者様により器やスプーン・橋等についても検討工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を行い歯ブラシについても個々に合った歯ブラシを選択、随時 施設内の歯科衛生士による口腔のアセスメント・相談を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者お一人お一人の今の持てる力に合わせて、支援を行い、その方に合った介助を支援しています。出来る限りオムツを使わず、トイレでの排泄が出来る様に支援しています。	入居者の排泄パターンを把握し声掛けすることで、排泄の自立を促している。また、トイレに座る習慣を持ってもらうことで、トイレで排泄できるよう支援している。実際に多くの方が失敗が少なくなり、オムツや紙パンツの使用がなくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には、看護師と相談し、服薬の調整を行います。なるべく運動や食べ物で排泄が出来る様に支援します。炊飯時に寒天を入れる・ヨーグルトにはちみつとキーウイを入れる・バナナ・牛乳等食べ物に配慮し水分摂取・体操・腹部マッサージ等も併用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のこれまでの生活習慣や希望に沿って入浴を支援します。身体状態により簡易リフトを設置安心・安楽な入浴を心がけています。楽しんで頂ける様に季節湯の実施をしています。	本人からの希望があれば、入浴には、毎日対応している。入浴があまり好きでない方には、清潔面を考慮し、声掛け等タイミングを見計らって、入浴できるよう工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて、居室や居間のソファに休まれるなど本人が安心して休息が取れる様に支援しています。眠れない時は、職員と一緒に居間で過ごされ、眠気が出てこられてから居室に戻られるなど本人のペースに寄り添いながら行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容・効果・副作用を記載した記録をファイルし、職員が常時確認出来る場所においている。服薬内容の変更については、業務連絡・引継ぎで確認を行い、記録に残している。投薬は提携している薬局より薬剤師が投薬、看護師がその日の投薬分をグループホームに上げるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事から役割・楽しみを見つけて頂ける様に工夫しています。調理の盛り付け・カフェの準備等手伝いや図書館に出かけたり、散歩当支援し、又季節の梅干し作りやなれずし作り・夏野菜の栽培などを行っていますが、新型コロナウイルスの影響により出来ていない事もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は日常的に外出が出来る様に、日帰りミニ旅行にも出かけたり、外食に出かけていましたが、新型コロナウイルス感染症防止の為自粛しています	コロナ禍以前は、地域の神社に出かけたり、ミニ旅行に出かけたり、外食に行くなど、できるだけ戸外に出る機会を持つようしていた。現在は入居者の安全を第一とし、出かける機会が少なく、玄関先のお花への水やり等行うことなどを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的に家族や後見人が管理されますが、少額については、ご本人の希望や能力に応じてお金を所持して頂き買い物の際に支払って頂ける様に支援しています。管理については小遣い帳を作り、後日家族に確認をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をして頂ける様又、携帯電話を持たれている利用者様もおられます。お友達・家族様に年賀状等を一緒に書くなど支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、ソファーや椅子を配置季節の花を飾り又メダカの飼育など思い思いに過ごして頂ける様工夫しています。又 利用者様向けのお知らせについては目線に合わせるなどの配慮を行っています。	共用空間のフロアや廊下にお花を置くなどして、居心地のよい空間づくりに努めている。メダカの飼育を行っており、餌やりや眺めたりして過ごされている。外向けにテーブルを配置し、眺めの良い景色を堪能できるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ではありますが、窓からの風景を見て頂きながらお茶を飲んだり出来る様にテーブルを配置。ソファーを置き・リラックスして頂ける様に重い思いに過ごして頂ける様に工夫をしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や人形等趣味趣向の物や服かけなど利用者様の馴染みの物・家具を配置居心地よく過ごして頂ける様工夫しています。又ドアの入り口には手作りの表札をかけ、ご自分のヘアや分かりやすい工夫をしています。	家具や仏壇など、個人が使い慣れた馴染みのものを居室に置けるよう配慮されている。写真や家族から送られたお花など、好みのものを飾られて、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や居間・ローカなど導線には、物を置かず、自由に移動して頂ける様対抗した時にぶつからないように心がけています。居間・トイレ等の位置がわかる様に表札や看取り図に利用者様の写真を添付しています。		